

激動する東アジアと日本

# 日米韓トライアングルの 深化を

——信を問うべきは「国の形」

激動する国際情勢はどう読み解けばよいのか。  
また、この国の形はいかにあるべきか。  
専門の政治学の領域を超え、幅広いジャンルで  
発信を続ける姜尚中氏が、複雑化するアジアの  
パワーバランスと日本外交について縦横に語った。

聞き手 本誌編集長 関口健次  
撮影 久保修平

東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授

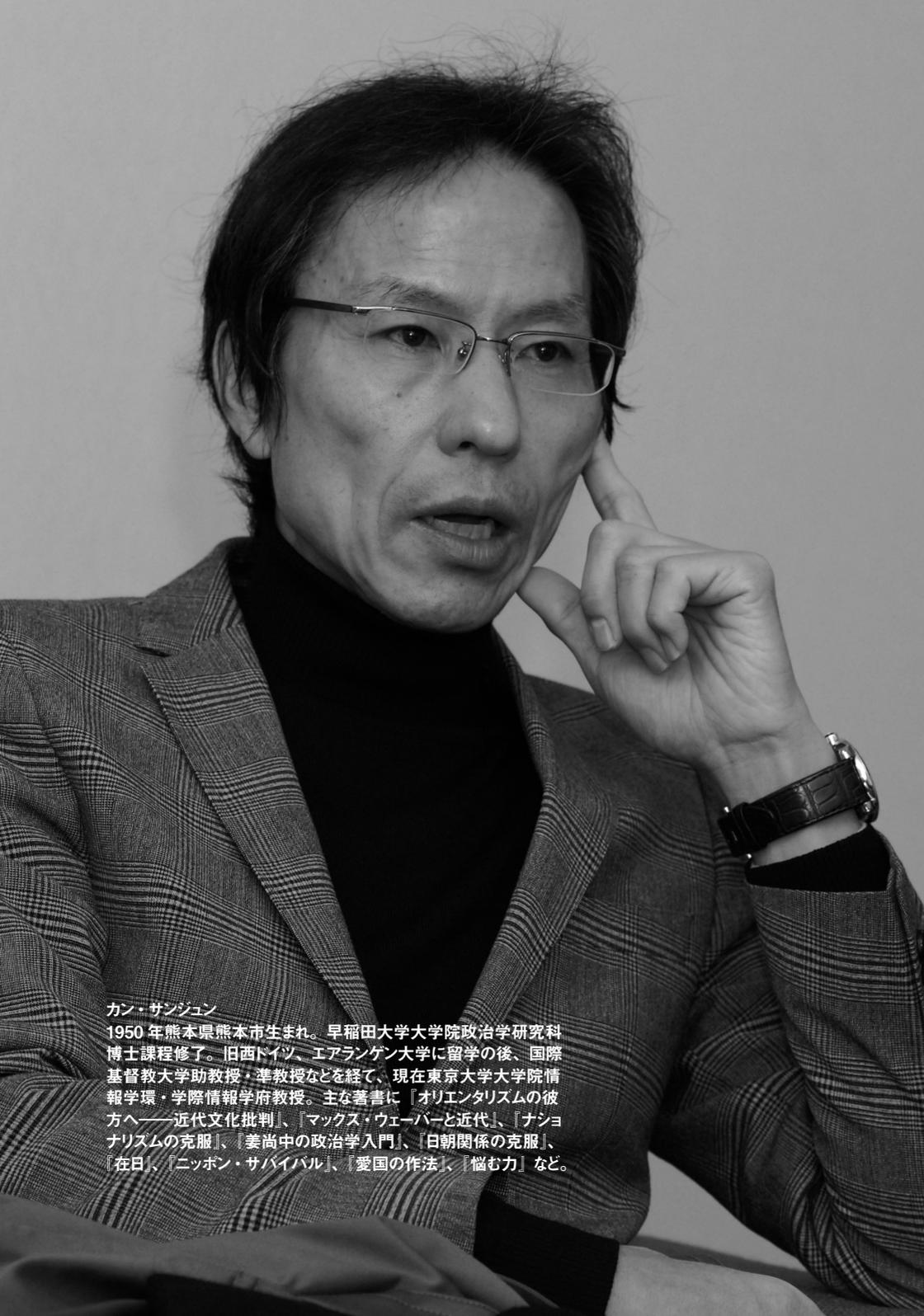
## 姜尚中

### 歴史の潮目にある日本

——流動化する国際情勢の中で、  
日本の置かれた状況をどう見るか、  
また、それをふまえて、今後の日  
本外交の目指すべき方向はどうあ  
るべきかを伺いたいと思います。

姜 グローバルに見れば、東ア  
ジアでパワーシフトが今起きてい  
ることは間違いありません。まず  
日本の戦後の歴史を簡単におさら  
いしてみましよう。

戦後の日本は、「吉田外交」に  
よって敷かれた日米安保を中心  
にした体制の中で——後に日米同盟  
という言葉に変わりました——日  
米関係を基軸にして、いわゆる55  
年体制がうまく作動してきました。  
これは、内外の環境が非常にうま  
く合っていたことが大きかったと



カン・サンジュン

1950年熊本県熊本市生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所博士課程修了。旧西ドイツ、エアランゲン大学に留学の後、国際基督教大学助教授・準教授などを経て、現在東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授。主な著書に『オリエンタリズムの彼方へ——近代文化批判』、『マックス・ウェーバーと近代』、『ナショナリズムの克服』、『美尚中の政治学入門』、『日朝関係の克服』、『在日』、『ニッポン・サバイバル』、『愛国の作法』、『悩む力』など。

思います。国内では、大量生産・

大量消費といった、フォーディズム的な生産のサイクルが非常にうまく働き、そこでは、官僚によって仕切られた自由競争が、日本の経済的な活力を最大限に押し上げることができました。これはおそらく戦後初期には誰も予測できなかった、非常に幸運な状況だったと思います。

東西冷戦が終わり、ベルリンの壁が崩壊した時点で、日本はちょうど平成になったわけですが、私は、これは日本にとっては危機的な状況が今後来るのではないかと、その当時、考えていました。昭和が終わって平成になったとき、日本の中にはやや楽観的なムードが広がっていました。私は、国際環境が大きく変わるのではないか

と何度も話していました。

## 「歴史は練り返す」か

日本の歴史を大きくとらえると、今の日本が明治維新から140年です。そのだいたい真ん中に1945年8月15日（終戦）があります。

その前半の70年のうち、最後の10年ぐらいで大きな変化が起きています。実はその頃と同じような変化が今も起こっています。

平成になってから、日本の内閣総理大臣は、15人就任しています。平均すると1年数カ月です。おそらくこれに比肩できるのは1928年から1945年までの時期ではないかと思います。

つまり、今の日本を取り巻く内外の変化は、おそらく日本が戦間

期に対決しようとした変化と比肩できるぐらいの大きな変化といえるのではないかということです。

ですから、戦時か平時かにかかわらず、内閣が非常に不安定な状況に置かれているのが今の時代です。

かつての日英同盟が、今話題となっている『坂の上の雲』の国際環境だったわけですから、もちろん歴史は単純に練り返しませんが、やや似た状況にあるのではないのでしょうか。

日米同盟は、現在揺らいでいます。日本としては、米国から切り離されて飛んでいくことは、日英同盟解消の歴史の轍を踏むのを練り返すことになるのではないかと思います。私は日米関係は一番

## 特別インタビュー

重要な意味があると思うんです。

ただ、戦前のような過ちを繰り返さないためにも、もう一つ、日米同盟に加えて、ウイニングを広げていくべきではないかと思えます。これは多くの方が主張していると思います。アジアにおける多国間外交を日本の国の生存のためにも展開していくべきだと思います。

### アジアへウイニングを広げる

私自身は東アジアにおける冷戦は終わっていないと思っています。少なくとも局地的な冷戦は続いている、そう考えた方がいいと思えます。朝鮮半島の緊張状態、それから日中をめぐる過去のさまざまな問題も含めて、ある種の雪解けがあるにしても、まだ、冷戦が残存している状況だと思っんですね。

ですから、今、非常に不安定な状況で、一般的に雪解けのときは一番不安定です。これをどうハンコリングしていくか、これが日本にとって喫緊の課題です。

今の状況を例えて言う、ちょうど幣原外交が戦間期に国際協調路線をやつていこうとしたわけですね。何とか中国のナシヨナリズムとも激突しないように、また、欧米とも国際協調を展開しようとした。しかし、それが日本国内では「軟弱外交」と批判され、やがて満州事変に向かつていったわけです。そうならないためにも、今大切なことは、日米関係の土台をきちんと据えた上で、もう一度、多國間の協調外交を展開できるぐらいの懐の深さと柔軟さが、今の日本に求められているのではないかと

思います。

### 中国の台頭と対外政策

——軍事、経済両面での中国の台頭が指摘されています。冷戦はまだ終わっていないという認識ですが、今後、中国とどう向き合っていくべきでしょうか。

姜 今後中国がどうなるかというのは「神のみぞ知る」で未知数ですが、ただその中でもはつきりと言えることは、中国は地球規模のリスクになるので、おそらくソ連の崩壊とは全く異次元のゾーンに入っていくと思えます。中国は世界経済に与える影響が余りにも巨大で、だからアメリカも1国ではこの問題を処理できなくなってきた。

中国の現状をどう見るかについ

て、大きくパーセプション（認識）

が違っていて、見方が二つに分かれています。今の中国の状況は覇権国家への道を歩んでいるが、国内は非常に非民主主義的で、経済的には確実にパワーを身に付けているという見方と、もう一つは、中国は民主主義は制度としては確立されていないけれども、プロセスとしては確実に民主主義に向かうとしている。具体的には中間層が台頭し、インターネットをはじめとするさまざまなメディアが効果を持ち始めているというものです。

ただし、どちらの見方においても、中国は、もはや世界経済にビルトインされていることは間違いないと見ており、そうした中では、中国が1国だけで覇権を求めるこ

とは事実上、難しいのではないかと思います。

おそらくアメリカも、ウォール街とワシントンでは、対中国の姿勢にずれがあると思われます。中国経済の持っている意味を了解した上で、米中の相互的な戦略的互恵関係を深めていこうというウォール街の見方と、それに対して、台頭しつつある海軍力や海洋への膨張を非常に危惧するワシントンの見方があり、アメリカにとっても、中国は一筋縄ではいかない相手です。

——確かにG2時代に向かっているとか、米中新冷戦時代が来るという見方もありますが、そういう見方は取られないということですね。

## 安全保障、多国間の 枠組みで

姜 私はそのようには取っていませんし、またそう理解してはならないと思います。日米韓の今回の北朝鮮に対するけん制と中国へのプレッシャーでは、一応結束をしていると思います。ただ、これが中朝対日米韓の東アジアの新しい冷戦構造になると日本や韓国にとつて、経済的なりスクは余りにも大きいのではないのでしょうか。ですから、中国がもう少し北朝鮮に関与して、積極的に北朝鮮を動かしてほしいというのがアメリカの意向だと思っうんですね。アフガニスタンやイラク情勢を考えると、在韓米軍をアフガンにシフトさせたいし、そのためには日韓が

## 特別インタビュー



もつと安保問題でも協力してほしい。それはアメリカからすると、よ

く分かる話ですけれども、これが新しい冷戦と見なされて、中国軍

部がより強硬になるとすると、そのリスクは非常に大きい。多国間の安全保障の枠組みを何とか作っていくしかないと思います。

従って、私は6者協議を無条件に再開することはできないと思います。北朝鮮の謝罪、それから非核化に向けた決意表明があつてはじめて、中国が言うような意味での緊急6者協議が生きてくるわけですが、しかし、現在の韓国はそれを受け入れるだけの世論がないと思うんです。最低限度そこまで条件を整えば、戦争ができない以上、6者協議再開という方向で動くのではないかと思います。ただ問題は、中国がそこまで北朝鮮をハンドリングできているかどうかということですね。

中国にとっても、北朝鮮は緩衝

地帯としての役割を持つというメリットよりは、トラブルメーカーになっっているんじゃないか。少なくとも中国首脳部の中にはそう考えている人が一部いるのではないかと思います。アメリカや日米の力を削ぎ落とす緩衝地帯として朝鮮半島を南北に分断しておきたい、北朝鮮という国が存続してほしいという願望がある一方で、トラブルメーカーになり過ぎてむしろ危機を続発させるのではないかという見方。中国の中でも、北朝鮮への対応については意外と迷っているのではないかと思います。

——中国の対外政策は不透明な部分があるんですけども、例えば尖閣問題などでも、中国内部の外交路線の対立といったことがあるのでしょうか。

**姜** 詳しくは分かりませんが、おそらくあるのではないかと思います。温家宝氏がハノイでの菅首相との首脳会談を突然キャンセルしました。その前は外務省の幹部も一応、首脳会談セッティングの方向に動いていたということですから、北京から突然——政治局常務委員会からの意として、温家宝氏にキャンセルをということであつたようです。そのとき、温家宝氏は内心どういう気持ちだったのか。温家宝氏は比較的、親日的というか、少なくとも融和的な姿勢を持っているんじゃないかなと思うんですけども。

## 朝鮮半島情勢の行方

——朝鮮半島情勢についてどう見えますか。

**姜** 私はやや願望も入っていますが、北朝鮮において3代世襲はないだろうと、集団指導体制に移っていくのではないかと期待しています。ただしそれは、金正日の健康状態がよいという前提です。今思えば、2009年あたりから、病状は深刻だったのでないでしょうか。

北朝鮮の世襲体制は、台湾のようになるのではないかと考えていました。台湾は蒋介石から蔣経国総統体制で、3番目が李登輝になって、そこで大きく変わりました。世界最長の戒厳令を敷いていても結局3代目はなかったわけです。しかし北朝鮮は台湾モデルにはなりませんでした。

北朝鮮という国は経済的な困窮には耐えられる国だと思います。

## 特別インタビュー

これまでがそうでした。ただ問題は、デノミの後に急速に北朝鮮経済が大きくハイパーインフレーションに移っていき、ヤミ市場も含めて市場経済が崩れていますから、その中で3代世襲となつて、かなり民心の離反が周辺部や地方で起きているのではないのでしょうか。

地方幹部も中国に内情をどんどん話すようになってきているという説も聞きますので、私はそれが今の北朝鮮の内部の不安定要因としてあり、その対応策として、先日哨戒艦事件、延坪島への砲撃、濃縮ウランの問題など、矢継ぎ早に危機を演出している部分があるのではないかと思います。

これが「終わりの始まり」なのか、それとも北朝鮮にはまだ持ちこたえられるだけの持続力がある

のか。金日成が亡くなったときは状況が違うので金正日が亡くなったときにどうなるか、分からないことが多いのですが、非常に憂慮すべき事態ですね。

### 民主党政権の外交政策

——そういった北東アジアの緊張状態の中で、民主党政権の外交を、どうぞ覧になつていきますか。

姜 私はいドイツでの研究生活が長かったので、ついそのことを思い出すのですが、ドイツは連立政権であつても、外交は、例えばゲンシャーとか、ある特定の人が10年ぐらいは継続してずっと要路に就いているわけです。このところの日本のように、外交に携わる外務大臣が1年ほどで代わるとなると、およそ外交ができないと思わ

れます。今回も岡田大臣が辞められて前原大臣になった。それから民主党代表選の時期に尖閣問題が起きて、官邸については菅首相がほとんど代表選に釘付けになつていた。そうすると結局、空白期間ができますし、外交についても腰を据えて適切迅速な判断ができないわけです。

今大切なことは、外交の安定性、一貫性です。それから、危惧するのは、外務省の人たちが今回の中国における民間人大使の起用をどう見ているかという事です。問題は中国で起きた。そのときに、異例な形で民間人から駐中大使を採用していて、外務省の人たちからすると、どう見えているのか。この人事が果たして功を奏しているかどうか。

——民間人の起用について、官僚がどう受け止めるかということですね。

姜 そういうことですね。外交官のモチベーションですね。国を背負って外交をやる以上、これまでの外務省の機密の問題とか、一応全部ある程度明らかにして、外務省の外交能力を変えていこうということだったわけですから、そういうときに中国をめぐって問題が起きた。メディアではそのあたりが全然触れられていませんが、私はやはり微妙な問題ではないかと内心思っていました。

そういう中で、尖閣問題では、日本の外交が対外的にはブレているイメージを与えた。私の言葉では、「外交」より「内交」にエネルギーを費やして外交的な戦略や、毅然

とした外交的決定が行われず、場当たりのイメージを与えているということですね。そういう政権の脆弱性を見越して、試している部分

が中国などにはあるのでしょうか。北方領土についても、北方領土をロシア化するということが2000年代半ばぐらいから進んできましたから、それで、尖閣問題での中国と日本の対応を見たロシアがああいった動きをしたのだと思います。ですから、私から見ると、日本国内のガバナビリティがしっかりあるというイメージが対外的に発信できていないと思いますね。

そういうときですから日韓関係は重要で、この間、うまくいったのは日韓関係ではないかと思うんですね。これが今ほころび状態だ

と、目も当てられません。アメリカと普天間問題で揺れ、ロシアと北方領土、中国とは尖閣、韓国ともぎくしゃくした関係だと、日本外交はどうなるんだというのがあつたと思いますが、何とか日韓関係は、北朝鮮危機もあつて、決して悪い状況ではない。

## 日米同盟深化のために

——冒頭に日米同盟はしっかりと堅持しながらやっつけていくべきだというお話でしたが、普天間問題などに見られるように、日米関係はぎくしゃくしている感があります。同盟の深化はどう進めていくべきですか。

姜 これは国内憲法との齟齬がありますし、もう一つは、オバマ政権が急速に支持基盤を失ってき

## 特別インタビュー

ていて、正直言って、今のアメリカは国内問題に足をすくわれていると思うんですね。今回の中間選挙の大敗はオバマ大統領の再選に黄色信号がついたということですし、そうすると何とかしてオバマ政権としては外交で点数をかせぐために、アフガン問題を速やかに解決したい。そのためにどのくらい日本は協力できるのか。この問題に韓国も、これまで以上の協力を要請されているんじゃないかと思うんですね。その一つが在韓米軍の一部をアフガンに振り向けた。そういう点で、日韓のパイプを太くしてほしい。つまり、日米同盟の深化は日韓の協力関係の深化として見た方がいいと思うんですね。つまり、それがひるがえってアメリカにとっては非常に好都合な間接的な貢献になるわけですが、

ただ、それが新しい冷戦構造を、対中国で作りに出すことは危険だと思っただけです。ここは非常に難しいと思います。日韓の間は微妙な関係もありますし、アメリカからすると、バードンシエアリングは、韓国もこれだけ大きい国になったんで、日米韓のトライアングルがあれば最強の同盟関係が、これまでのパイの関係からトライアングルになりますから、非常に心強いのではないかと。今後アメリカは、対日、対韓という個別的な2国間関係だけではなくて、日韓の線をより太くしてほしい。そのことは間接的にアメリカのさまざまな防衛上の役割分担になるんじゃないかと、そう思っているのではないのでしょうか。

### 集団自衛権と憲法問題

——その役割分担に関して、集団自衛権の問題というのが出てきます。

姜 自身は憲法擁護派ですが、集団的自衛権を行使するにせよ、行使しないにせよ、憲法をきちっとしてからすべきじゃないか。国民がこの憲法を変えようと、その意思表示をするならば、それはそれですっきりしている。もっとも、個人は憲法改正には反対ですが、ですから、21世紀を睨んで日本はどうあるべきかというときに、小手先で問題を糊塗するよりは、しっかりと議論をして、今後政界再編成が起きるならば、それも一つの大きな柱にして、日本の「国



の形」について、しっかりと信を問うたほうがいいと思います。

その上で国民が、今の憲法を維持して、第9条第1項、第2項も

必要だと考えるのか、第1項は維持するけど、第2項は変えようとするのか。そしてはつきりと自衛権の行使として個別も集団もないということをも明文化して進んでいくのか。これは政策的に決めていくというよりは、国民に信を問うて、それを政界再編成の大きな旗印にしないと、今までのような数合わせでは国民にとって分かりにくいし、そうした方がいいのではないかと思えますね。

私は、今の憲法には使い勝手がまだあるんじゃないか、と考えています。使い勝手があるので、日本の立場としてはこれをうまく活用しながらやっていく。日本という国は外交的にあまりにも原理原則をガチガチにやると、大抵は誤ってしまふ。だからもつとたく

## 特別インタビュー

ましく、柔軟性を持って、ただ一方で原理原則は今求められていませんし、そこはなかなか判断が難しいんですけど、憲法の問題は結局、日本の対外的な生存、今後の日本外交の骨幹を決める問題でもありますので、単なる国内問題ではないと思うんですね。

もうここまで来たら、今後、数合わせで政権を取ったところで、同じことが繰り返されるので、いっそのこと、しっかりと柱を立てて、外交、内政——結局経済政策ではあまり変わらないと思うんです。市場経済とある程度の雇用の確保というのほども変わらないし、大きな差はありません。アメリカの民主党と共和党のように大きな差はないわけなので、私は、三つぐらいの柱、憲法と集団的自

衛権および日米安保をセットにした国の形の大きな骨格。それから2番目は、それと連動しますけど、対アジアとの関係をどうするか。3番目は価値をめぐる政治的判断ですね。

この三つに集約したほうがいいんじゃないか。あとは財政上の税制をどうするかとか消費税をどうするかというのは早晩やらざるを得ないし、それは、そう大変な争点ではないと思いますね。

——国の形の話が出ましたが、かつて、今の状況と1970年代の西ヨーロッパと類似性があると指摘していますね。

姜 それは、私が1970年代の終わりにドイツにいて、ご承知の通り、あのときはドイツもイタリアにも過激派が出てきましたし、

失業率が異常に高くて、それがほとんど若者にしわ寄せがいついていたんですね。日本の場合には、中高年齢層にしわ寄せが後々いくようになりましたけれども、今はもう明らかに若者にいつている。それからあのときは、ご案内の通り、インフレ下の低成長だったんです。今はデフレ下の低成長が起きていますから、もっと深刻だと思えます。

そういう中で、西ヨーロッパは確実に衰退するのではないか。大平正芳元首相のときには「英国病にならないように」というのがキャッチフレーズでした。あのイメージが今の日本にある。デフレ下の経済収縮、格差、若者へのしわ寄せ、閉塞感があつて、西ヨーロッパはどこに活路を求めたかと

いうと、EU統合だったわけですから、今あまりうまくいってませんけど。

だから私は、日本の立場からして、中国と全面的に事を構えることはできないのではないかと。ただ、中国に正常な大国としての自分の責任と役割を持てる国になつてもらいたい。これをどこまで日米韓が協力してやっていけるか。そこが日本の今後生きていく道なんじゃないかと思うんです。

## これからの経済成長戦略

——今おっしゃったように、日本の閉塞感を何とか打開していくためには経済成長戦略が必要になつてきます。これについてはどのようなお考えでしょうか。

姜 菅首相はTPPにシフトし

ました。協議に参加する、そういうことですね。果たしてこれがパーマネントかどうかはわかりません。ただ間違いなく、TPPは明らかに日米のFTA、もしくはEPAに等しいと思うんです。それ以外の国は中南米の小国ですから、これはもう世界最大級のEPAに事実上なつている。これは中国に対するけん制だと思うんですね。条件を整えて、その中に中国に入ってもらおう。

だから中国に対する条件を突きつけていくことだと思うんですが、依然として農業問題や国内の、特に郵貯、郵政の問題が大きいと思います。TPPの最大の問題は農業ではなくて、私は郵政の問題だと思うんですね。保険や郵便貯金の事実上の反民間化に対

して、これを開放しろというのが最大のミソだと思いますから、それぐらいのことまでやっていくぐらいの国内改革がないと、私はTPPに入れないと思います。これはジレンマで、だからこそ思い切った政治的指導力が必要だと思います。TPPはあくまでも農業問題が前面に出ているみたいですけど、同時に郵政の問題があるわけです。

——今農業問題ばかりに焦点が当たっていますけれども、農業以外でも難問山積ということですね。  
姜 難しい。農業以上に、郵政の方が難しいと思います。国民新党との連立を解消。それから、日本最大というか世界最大の郵便貯金ですから、これが開放されて民間化されることを、アメリカはよ

## 特別インタビュー

だれが出るほどに欲しがっているわけで、保険それからサービス業の門戸開放、ここに向けて踏み込めるかどうか。これは日本国内では大変な議論になると思いますね。

それでもやる。やらなければ日本の生きる道はないと決断できるのかどうか。韓国は農業問題で前に進んだわけですね。ですから5年後は、アメリカ市場をめぐっては、少なくとも自動車をはじめ、日本は韓国との競合ではかなりのハンディを背負うと思います。

宿命的に日本は1億2000万人の人口を持ったことが、実は今最大のネックになっているんじゃないか。4万ドル近くの1人当たりGDPを持って、1億2000万人というのは、アメリカを除くと日本だけなんですよね。こんな国は

世界にないし、これだけの豊かなものを持っている。だからこそ、韓国みたいにもう外に出るしかないという道を選択できなかったわけで、そのツケが今、回っているわけですね。

——しかし、TPPに参加しなければしないで、また大変なことになってくるわけですね。韓国は米国とFTAを結ぼうとしているわけですから、日本としてはそのままにしているわけにもいかないですね。

姜 ですから、座してもじり貧、打って出ても国内が混乱。ここでやっぱり、強力な連立政権をしっかりと作って、それでメニューを出して、黒か白か、はっきり進むべき道をつけた方がいいと思うんです。今のようにいたらだと、ただ

沈没していくだけなら、かえって最悪の結果になるんじゃないか。

### 「内交」に向かう日本政治

——衆参ねじれの状況になっていますから、全く政策が動かないという状況になりかねません。大連立構想といった政界再編の動きも活発化しています。

姜 そういう案もありますね。私は大連立自体には反対で、さっき言いましたように、国の形、アジア外交、価値観、この三つを柱にして、もうはつきりとシャッフルした方がいいんじゃないか。そこで2大政党制に移るのなら2大政党制。

ドイツの場合は、今回連立を組み替えましたけど、CDU、CS D、FDPとうまくいってますし、

メルケルも比較的うまくいっている。外務大臣はFDPからずっと

今まで出てきましたし、私も1995年、ゲンシャーさんにお会いしたとき、やっぱりこれはなかなかの外交官だと思いました。彼と会って話を聞いて、10年以上、西ドイツ外交、ゴルバチョフと真正面から外交をやってきた人らしいと。

だから今後もう日本は最低限、任期間中は1人の外務大臣でもう代わらない。私は、もうそうすべきだと思います。誰に聞いても、何かこう自然に解体していくようなイメージをみんなが持っているので、メリハリをつけてほしいですね。

——そういう思い切った政局の転換をできる指導者像というのは

どういうイメージですか。

姜 今の最大の問題点は人材が適材適所になっていないことだと思います。金大中氏（故韓国大統領）の外交評価は今は少々ネガティブになっていますが、私には実際にお会いして感銘を受けたのですが、少数与党だからこそ、思いついて金鍾泌氏を首相に起用したわけですね。フランスだって、シラク大統領は野党の党首級の人を首相に据えました。

だから、本当に力があるならば、思い切って、党派を超えて一本釣りしてでもいいから引つ張ってくるとか、そういうことを積極的にすべきだと思います。派閥を超えて、国のためには、できる人を要路に据える。

かつての中曽根首相も、田中角

栄の「懐刀」と言われた後藤田（正晴）さんを派閥を超えて起用しました。後藤田さんみたいな人がいると安定するわけです。いろいろ毀誉褒貶<sup>きよほうへん</sup>尽きなかったけど、野中（広務）さんもいた。小淵元首相のときに、沖繩のことでとても汗をかいて取り組み、沖繩の心をつかんだ。韓国でも金大中氏は、朴正熙大統領の最大の支援者の1人だった朴泰俊<sup>パクテジュン</sup>という、現在のポスコの創業者を、彼がいなければ経済のハンドリングはできないと、いつて首相に据えました。

——政治も内向きになっていくという指摘があります。

姜 おっしゃる通り、私の言葉でいえば「内交」になって、政治もどきのことをステーツマンシップとはき違えているわけですね。

## 特別インタビュー

だから、テレビ映りもいい、何となくこの人は好感が持てる、そういうレベルで政治家が見られるようになる、これはある種、ソフトなポピュリズムで、いいことは何もないと思います。極端な言い方をすれば、世論は神様なのかという事です。最近のアップダウンの激しい支持率を見てみると、世論に一喜一憂しては政治などは進められないとすら思うことがあります。だから、誤解をおそれずに言えば、世論に従うと同時に、世論に抗して政治をやる。この二つのことを政治家がわきまえないと、世論に迎合することで支持率を上げていけば、それでバンザイというようなことになってしまふ。

外交を考えてみると、小村寿太

郎のときも日比谷で焼き討ち事件が起きたわけですよ。あのときロシアと戦えないことは日本の外交首脳は分かっていたわけで、そこで何とかあの段階で幕を引いたことは外交上の勝利だったわけですが、国民はそうは思わなかった。

あれは日本外交の中で教訓だったと思います。つまり、外交的勝利、誰がどう見ても外交官として目一杯のことができた。ところが、それが世論からはまるっきり反対に評価されると、もうなすすべがなくなる。世論に従いながら、世論に抗してでもなすべきことがある。

——政治主導で、官僚が内向きになってしまいますね。

姜 そうなんです。日本の外

交官は優秀な人が多いから、もともとフル回転して、どんどん使っていく状況に持っていけないとだめですね。結局のところ国民の税金ですからね。その認識については民主党自体ももうちょっと考えてくれないと。官僚と連動しないことには国民の税金をむだ遣いしてるんだと言いたいですよね。政権交代で混乱から混乱への道なのかと思うと、国民にも虚脱感、徒労感しかない。これは本当にもう足下を見透かされて、どんな叩かれるというか、押し込まれるというイメージになる。

——外交的に厳しくなりますね。

姜 ええ。そうすると、すごく変なバネが働くんですよ。核武装をやれとか、むちゃくちゃな議論になって、これは自滅的な外交

選択ですから。今もうぎりぎりのところに来てるんじゃないですか。もう1年間もこの調子だったら、大変なことになると思いますよ。

## 2012年問題

姜 2011年の1年間で、2012年に向けてしっかりとした内政・外交をしておかないと、大変なことになるわけです。2012年は「強盛大国の大門を開く」なんて豪語した金日成の生誕100年です。韓国も大統領選挙、アメリカも大統領選挙、中国も首脳部が代わる。だから私は2011年がヤマだと思います。ここで、内政で混沌としているならば、大変なことになる。だから早く、本当は年内に方向転換を決めないといけないと思うんです。ただ小手先

に通常国会を開けるか開けないか、そのためにどれだけ犠牲を払えばいいかという国会対策的な議論では、日本の今の国難はブレークスルーできないと思うんです。

——中国ですけれども、2012年に習近平がトップになるということで、胡錦濤・温家宝が進めてきた対日融和路線がどう変わると見えますか。

姜 一番大事なのは、日米韓のトライアングルを強化すること。日韓の輪をきちつと締め直して、安保協議まで入る。そしてアメリカの負担をシェアする。その代わり、アフガニスタンにもう少し、勢力を注ぎ込める。一方でアメリカが中国と、かつてのキッシンジャー、ニクソンのように、米中関係を日韓の頭越しでパイプを深

めていくということになると、日韓はある意味では米中の間の手駒にされる可能性もあるわけですね。

アメリカという国は、いざとなったら電撃的な米中和解も成し遂げるぐらいの国ですから。100パーセント日米の利害関心が合うわけではないので、問題は、アメリカが米中と、どういうスタンスで今後やろうとしているのか。それをしっかりと見極めて、その上で、日米韓のトライアングルにどこまで踏み込むのか、これを決めていかなくてはいけないと思うんです。そこが難しいと思います。

——最後は政治の話になってしまいますね。

姜 そうでしょうね。そこを判

## 特別インタビュー

断するのは難しいですね。ただ、中国は日韓の輪が閉じられると、かなり危機意識は持つでしょう。それが軍部に反響することは間違いないと思います。その結果として、中朝関係が軍部主導でより強められるのか。党の中には「もう北朝鮮は金正日が亡くなれば韓国主導で統一したほうがいいんじゃないか。その代わり、38度線を維持してもらいたい」、そこまで考えているのかどうか。軍部はそこまで行かないでしょう。何が何でも北朝鮮を支えようとするかもしれない。よし、だから日本は、中国とアメリカの間で、ブレーキとアクセルの踏み加減が非常に難しいと思います。

ですから、私は前から、日韓の関係は日本独自でもっともっと深

めたほうがいい、と言ってきた。そして、一応民主主義をシェアし合っていますし、生活水準もだんだん似てきて、過去のわだかまりはいろいろあるし、領土問題もありますけれども、北方領土や尖閣と比べると重要度は低い。そうすると、日韓関係をこれまで以上に強化して、そして対中、対米に当たっていく。

そうしないと、日本は結局、何度かアメリカに煮え湯を飲まされていることも事実ですよ。プツプツ外交のときも、ライスさんは結局、制裁解除に動きましたよね。だから、それを見ても、日米を最も大切にしなければいけないけど、アメリカは場合によっては、日本の頭越しに米中関係をより深める可能性もあり得る。そこまで

見越してやらなければいけないと思います。

難しいですね。だから複眼的に、日本の国益のために、アクセルとブレーキを使い分ける。それはやっぱり手練の外交官が必要ですよ。二枚腰、三枚腰の外交担当者でない、ただ世論受けのいいようなことを言うだけではだめなんじゃないか。

### 日韓関係の深化のために

——日韓関係の深化に関して、日本よりは韓国サイドに、踏み込めない面というのがありませんか。  
姜 やっぱり踏み込めない面はありますよ。面はあるけど、忍び足で少しずつ少しずつやろうとしてるのではない。だから日本側も、最初から踏み込むよりは、忍

び足で少しずつ少しずつ浸透していこうという考えじゃないですか。

李明博大統領もそうだと思うんです。私は、日韓の関係は、将来を考えると、もう少し踏み込んだほうがいいんじゃないかと。もちろん、日米韓でトライアングルを組んで中朝に対抗するような新冷戦型の対決構造を作り出すための日韓連携は好ましいとは思いません。——そうすると天皇陛下の訪韓という話が避けて通れないんですよ。

**姜** まあそれは避けて通れないでしょう。今の陛下は中国に行かれたから、韓国にぜひとも行きたいというご希望は持つてらっしゃると思いますね。韓国の人にいろいろ聞いたら、韓国が一番恐れているのは、自分たちが言い出しつ

べになって、ぜひともぜひともと言って、渋々日本が応じて来た場合、何かあるときに大変なことになる。日本側主導で訪韓を希望するという形で来てもらった場合の方が、後々の問題でという、両方の思惑の違いがあります。

——日本側は慎重ですよ。

**姜** 慎重です。ただ私は、韓国の世論を見ると、中国でさえ、なんとか無事に切り抜けられたわけですから、今の韓国は陛下を受け入れることについてはそんなにアレルギーはないと思います。2001年に陛下も、桓武天皇のお母さまが武寧王の子孫であると「続日本紀」に記されていることに韓国とのゆかりを感じるとおっしゃいましたし、最後に、韓国さえ訪問すれば、戦後の陛下の役割は一

応一巡したと思っていらっしゃると思うんですね。

今の平成天皇は昭和天皇の時代のいろいろな問題を自分の時代できちつと処理しようということに徹せられた、非常に賢明な方だと私は思っています。だから、対外的にも非常に評判がいいので、韓国で問題が起きるといふことはなれど、私に思うんです。ただ、日本側が慎重ですね。ちょっと私がよく分からないのは、中国の方が問題が大きかったと思うんだけど、どうして訪中が可能だったのか分からない。今の韓国の中で不測の事態が起きるといふことは、私が見限りは、ちょっと考えられないと思います。こんなに北朝鮮との問題が対立していく中ですから。だから、どの外交官に聞いても、最

## 特別インタビュー

後はやっぱり中国はよく分からな  
いという評価を聞きます。政策決  
定過程がブラックボックスに入っ  
ている。だから、どんなに外交官  
同士仲良くなっても、ある日突然、  
ということがある。日本はブラッ  
クボックスがないから、大体もう  
分かる。だから、いろいろあるけ  
ど、日本との関係を深めるしか  
ないと。

だから、私は日韓を深めるしか  
道はないと思いますよ。そのため  
に、もう少しアレルギーを減らし  
ていくしかないと思います。だか  
ら当然、おっしゃる通り、訪韓の  
問題が近いうちに浮上すると思っ  
てですね。安保・防衛まで踏み込  
むならば、訪韓なしにはやれない。  
だから菅さんには陛下が訪韓し  
たときに安んじて行けるように、

政治主導できつちりとしたことを  
やったほうがいい。政治家がロー  
ラーにかけて、でこぼこがある意  
味きちつと地ならしをした上で陛  
下が行かないと、変に政治利用と  
見られる。やはり儀礼的な意味が  
あるわけですから、それ以上のこ  
とは大迷惑ですし、皇室だつて二  
の足を踏むはずですよ。だから、  
2011年、菅さんの政権が続い  
ていたらの話ですけれども、韓国  
できちつとしたことをやったほう  
がいいと思う。一つの国は本来、対  
立しているのがおかしな状況です  
し、中国という中華帝国の隣国、島  
国である二つの国が相争うこと自  
体、おかしなものですからね。客  
観的に日韓関係が重要だという意  
識が前よりは深まったんじゃない  
ですか。

——そうですね。それはあると  
思います。

姜 ここをしっかりとっておか  
ないと、対中関係はうまくいかない。  
少なくとも応援団をきちんと作っ  
ておこうということですね。

だから私は、今後は世界の中の  
日韓関係、東アジアの中の日韓関  
係が大切だと思います。

——ありがとうございます。

(2010年12月14日収録)